

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0770403566	
法人名	MCP株式会社	
事業所名	グループホームつどい「柳内家」	
所在地	福島県いわき市鹿島町御代字柿境25-1	
自己評価作成日	平成23年9月19日	評価結果市町村受理日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigo-fukushima.info/fukushima/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉ネットワーク
所在地	福島県いわき市錦町大島2番地
訪問調査日	平成24年1月17日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

介護業界では数少ないISO9001認証を取得し、業務やサービスを常に改善し、質の向上に取り組み、忠実にを行うことにより、統一されたケアを図ることができている。ホームの理念に基づき、心に寄り添ったケアをすることにより、全ての方々にとって心地よい空間作りを、職員一丸となって取り組んでいる。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

利用者と家族が、共に参加できる季節感がある外出や活動を大切に、絆がより深まるような支援をしている。
 楽しみを持ちながら安心して過ごせるよう職員が一丸となって話し合いをしている為、より良い支援につながっている。
 管理者と職員は、利用者と信頼関係を築いて、何でも話せる関係ができている。また、職員同士のコミュニケーションが円滑で信頼しあえる環境は、様々な情報の共有や利用者の思いの把握に繋がり、日々のケアのサービスの向上に活かされている。

サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当するものに印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を 掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求 めていることをよく聴いており、信頼関係ができ ている (参考項目:9,10,19)	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面が ある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地 域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関 係者とのつながりが広がったり深まり、事業所 の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表 情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね 満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安な く過ごせている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスに おおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟 な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキ-) + (Enterキ-)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	<p>理念の共有と実践</p> <p>地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている</p>	<p>地域のグループホームとして担えるように、利用者・家族・職員の意見を基に理念を構築し、実践につなげている。</p>	<p>毎朝、理念を具体的に表現した「つどい10の約束」を全員で唱和し日々の行動を確認しながら、ケアの実践に繋げている。</p>	
2	(2)	<p>事業所と地域とのつきあい</p> <p>利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している</p>	<p>自治会への参加、地域のお祭り、近隣の幼稚園、小学校の行事への参加が定着し、交流を持っている。また、子供避難所に登録し、地域の一員としての役割を果たせるようにしている。</p>	<p>散歩時や近所の床屋・飲食店・コンビニエンスストア等での利用や買い物を通して、近隣の人々と従業員が顔馴染みになり、交流を深めている。幼稚園や学校との交流は原発事故の影響の為、一時的に控えており、再開について検討している。</p>	<p>今までのように行事参加や交流が再開できるか相談したり、近隣の学校の「福祉体験学習」の受け入れを呼びかけたりして、地域とのつながりを絶やさないよう、継続した交流を期待したい。</p>
3		<p>事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている</p>	<p>事業所を開放的にし、地域住民・実習生・ボランティアを積極的に受け入れている。</p>		
4	(3)	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>運営推進会議により、それぞれの立場から意見を出していただき、サービス向上に活かしている。</p>	<p>会議では、畑の利用についての提案や、ボランティアの紹介など様々なことが話し合われている。評価結果を含めた会議録を玄関に掲示し、意見を受け入れ反映したことが分かるような工夫がされている。</p>	
5	(4)	<p>市町村との連携</p> <p>市町村担当者や日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる</p>	<p>介護相談員を受け入れており、助言をいただいている。また、必要に応じ、市町村窓口を訪問し、助言をいただいている。</p>	<p>毎月一回、市の長寿介護課に行き、近況報告や相談、情報提供をし合うなど連携がとれている。市の委託の介護相談員に月に一度来てもらっており、利用者の意見、希望などの声の報告を受けている。</p>	
6	(5)	<p>身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>身体拘束マニュアルに沿って拘束のないケアに取り組んでいる。</p>	<p>車椅子の利用者の場合は、定期的に移動を行うなど、職員全員で身体拘束をしないケアに取り組んでいる。大通りに面している為、徘徊者の事故防止の観点で、家族の承諾を得て玄関を施錠をしているが、利用者が外出しそうな様子の時は、一緒について行くなど、見守りながら暮らしを支えるようにしている。</p>	
7		<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>研修等を実施し、常々注意を払い虐待防止に努めている。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	<p>研修等を実施し、職員が権利擁護について学ぶ機会を設けている。</p>		
9		<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>入居契約時に、十分に理解・納得していただけるよう説明し、了承を得た上で契約を結んでいる。</p>		
10	(6)	<p>運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>ご意見箱やアンケート調査により、意見を取り入れられるよう努力し、また、家族来訪時に積極的に意見を交わし、情報の共有をしている。</p>	<p>利用者や家族とは密にコミュニケーションをとっており、お互いに何でも話し合える関係を築いている。玄関に意見箱を設置したり、市の介護相談員を通じて要望等をきめ細かく聞くなどの機会を設けて、出された意見を運営に反映させている。</p>	
11	(7)	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>朝礼、ミーティング、個人面談等で、コミュニケーションを密に取れるようにしている。</p>	<p>職員同士、日頃から、何でも話し合えるようなコミュニケーションづくりがなされている。管理者と個人面談が行われたり、半年に一度、職員と各フロア主任が話し合う運営ミーティングを開催したり、意見を聞く機会を設けている。</p>	
12		<p>就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている</p>	<p>社内全事業所の管理者会議を定期的で開催し、社内環境の整備に努めている。</p>		
13		<p>職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>社内職員研修計画を基に、研修会を行っている。また、外部研修にも積極的に参加するよう働きかけている。</p>		
14		<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>グループホーム協議会に加盟し、情報交換をしている。また、適宜他事業所と連絡を取り合い、ネットワーク作りをしている。</p>		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>知り得た情報をスタッフ間で共有し、利用者と寄り添い馴染みの関係を築く事で、一人ひとりの思いを汲み取れるよう心掛けている。</p>			
16		<p>初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>入居時に、家族の一員として関わりを持っていくことを了承していただき、アットホームなホーム作りを心がけている。</p>			
17		<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>入居問い合わせ時に、情報の聞き取りを行うことで、最良の選択肢を選べるような助言・支援をしている。</p>			
18		<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>全ての方々にとって「心地よい空間」であるよう心がけている。</p>			
19		<p>本人を共に支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>グループホーム介護は、家族と共にをモットーに、良い関係作りを心がけている。</p>			
20	(8)	<p>馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>生活暦を重視し、これまで築き上げた関係を継続できるように働きかけている。</p>	<p>特に家族との絆や継続した関係を大切にしており、自宅への外出外泊や家族との面会、お墓参りや行事参加に付き添うなど積極的に支援している。コーラスや民謡や演奏会、お茶などのボランティアの方々を歓迎し、定期的に利用者と一緒に楽しんでいる。</p>		
21		<p>利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている</p>	<p>利用者一人ひとりの生活の場であることを認識し、共に支え合える環境作りを心がけて支援している。</p>			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
22		<p>関係を断ち切らない取組み</p> <p>サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている</p>	<p>利用終了後も、必要に応じて相談、助言ができるよう心掛けている。また、ホームの行事等にも参加いただけるように、お知らせ等を配布している。</p>			
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>利用者に寄り添うことで、常に生活のパートナーであるということを認識し、本人が望む生活を送ることができるように、情報共有や検討をしている。</p>	<p>日々の関わりの中で、入居者の声に耳を傾け、思いや意向の把握に努めている。職員同士でも情報や思いを共有したりして理解を深めている。</p>		
24		<p>これまでの暮らしの把握</p> <p>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている</p>	<p>これまでのライフスタイルに合わせた生活を送ることができるように、生活歴等を聴取し、ニーズを満たすことができるよう支援している。</p>			
25		<p>暮らしの現状の把握</p> <p>一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている</p>	<p>各種記録類を活用し、情報の把握と共有を行い、状況に応じたケアができるよう努めている。</p>			
26	(10)	<p>チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>本人・家族等と密に話し合い、意向に沿った介護計画を作成している。</p>	<p>各利用者を担当制にし、毎月ケアマネージャーや介護相談員、訪問看護ステーションや医師などと担当者会議を行なっている。モニタリングは必要に応じて柔軟に行い、現状に即した介護計画が作成出来るよう図っている。</p>		
27		<p>個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>ミーティング等を定期的開催し、各種記録を基に情報を共有し、ニーズの変化を捉え、介護計画の見直しをしている。</p>			
28		<p>一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>利用者の生活全般の支援の他、家族の負担軽減等についても助言・支援をしている。(医療連携の充実・地域との交流も含め)</p>			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		<p>地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>地域との交流を密にすることにより、地域のホームであるべく働きかけをしている。また、地域の行事等へも参加している。</p>		
30	(11)	<p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>在宅訪問診療を利用し、ホームドクターとしての役割を担っていただき、安心できる医療の確保ができています。</p>	<p>家族の付き添いや職員の支援でかかりつけ医の継続した受診が出来ている。事業所の医療連携機関の往診や訪問看護ステーションを利用出来ることで利用者と家族の安心感が得られている。</p>	
31		<p>看護職との協働</p> <p>介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>訪問看護ステーションと連携を組み、利用者の健康管理、急変時の対応、看護師と医師・病院間の連携が確立されている。</p>		
32		<p>入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>協力医療機関・提携訪問看護ステーションによる医療が充実しており、入退院に関してもスムーズな対応が可能である。また、定期的に医療に関する研修会を実施していただいている。</p>		
33	(12)	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>医療連携が密にできていることで、本人・家族の意向に沿った支援体制が整っている。</p>	<p>入居時に重度化についての指針の説明を行なっている。医療機関や、訪問看護ステーションとの連携により、出来るだけ本人、家族の意向に沿った対応が出来るよう支援している。</p>	
34		<p>急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>全職員が救命救急の講習会を受講し、救急時の対応に備えている。</p>		
35	(13)	<p>災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>定期的に防災訓練を実施し、必要に応じ消防署のご指導を頂いている。また、近隣住民へ、災害時の協力依頼をしている。</p>	<p>2ヶ月毎に自主訓練を行っており、年に2回は消防署の協力を得て避難訓練や研修会を行っている。また近隣住民の見守り協力も得られている。次回の訓練時には、区長さんの参加を依頼し、震災を踏まえて地元と協力体制が築けるよう検討している。</p>	

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	自社のプライバシーポリシーに基づいた行動がとれるよう働きかけている。	利用者の個人記録や情報管理など、責任ある取り扱いに十分気を付けている。日常の中でも、トイレなどの声かけや要望確認など、耳元でさり気なく行い、本人の気持ちを考えて、誇りやプライバシーを損ねない対応を心掛けている。		
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者一人ひとりの思いを叶えることができるよう常々確認し合い、希望に沿った生活を送ることができるよう模索している。			
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	業務優先ではなく、利用者本意の生活を追求している。			
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の好みを重視し、身だしなみにも気を配っている。			
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理・盛り付け、配膳・下膳・食器洗い等への参加を励行し、食事は利用者と職員と一緒にしているまた、外食・自由食を設け、希望に沿った食事が提供できる工夫している。	献立は、提携業者の栄養士が作り、同じ食事を職員も一緒に食べている。週に一度は利用者の好みや希望を取り入れたメニューや人気の外食を提供している。毎回おやつ作りは工夫しており、利用者みんなと一緒に調理や手伝いをして楽しんでいる。		
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	常々把握し、一人ひとりのニーズに対応することができるよう心掛けている。			
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人ひとりの力量に応じ、見守りや介助を行い、清潔保持している。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	各種記録の活用により、一人ひとりの状況を把握し、自立支援に向けたケアを心掛けている。	一人ひとりの状況に応じて、自立して排泄出来るよう支援している。夜間は利用者に合わせてポータブルや尿器の設置など日々の状況や変化に応じて支援している。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	適宜医療機関へ指示を仰ぎながら、自然排便ができるよう心掛けている。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	一人ひとりの希望に合わせた入浴が実施できている。	入浴は午前中に入ることが多いが、希望に合わせて好きな時間に入浴することが出来るように支援している。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりのライフスタイルに合わせた生活の実現を目指している。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	主治医・薬局との連携を密にしている。また、服薬チェック表にて、誤薬・服薬忘れ等が無いように努めている。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人の望み・好み・特技を生かせるように、生活全般で活躍できる場面等を設けている。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常的に外出している。	その日の天候や体調に合わせて、散歩したり、買い物などを楽しんだりしている。毎月2～3つ以上の季節行事を多く取り入れている。年始には初詣に行き、梅の季節には、毎年市内の専称寺へ観梅に出掛けたり、など積極的に外出支援している。	

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
50		<p>お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>本人の能力に合わせた金銭管理を行っている。</p>			
51		<p>電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている</p>	<p>自由にやりとりができるよう支援している。</p>			
52	(19)	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>五感や季節感を意識的に取り入れる工夫をしている。</p>	<p>広々とした共用空間には、利用者の書道作品、職員手作りの貼り絵や短歌調に書かれた「かるた」が掲示されていて、見て、読んで楽しむことができるように工夫されている。畳コーナーもあり、横になって寛ぐこともできて、居心地良く過ごせる空間となっている。</p>		
53		<p>共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>和室スペース、ソファ、こたつ等を設置し、自由に過ごしていただけるよう配慮している。</p>			
54	(20)	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>使い慣れた物や馴染みの物を持ち込んでいただけるようご家族に提案している。</p>	<p>一人ひとりの部屋の表札は、住所の番地のように表記されていて、住まいを感じさせるものとなっている。入居前に使っていた馴染みのものやテレビ、冷蔵庫など希望するものを持ち込めるようになっており、安らぎの中で過ごせるような工夫がされている。</p>		
55		<p>一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>ホーム内は全てバリアフリーであり、また、各所に手すりを設置し、利用者の安全を確保し、自立した生活を送ることができるよう配慮している。</p>			